2025 年 7 月 24 日(木)9:00 から CRT スタジオで収録

生徒の仕事とは何か、勉強

―アンドレ・モーロワ著「人生をよりよく生きる技術」
講談社学術文庫、講談社 1990 年 8 月 10 日刊を読む―

開倫塾
塾長　林明夫

はじめに

(1)教えるにはもちろん技術がいる。
(2)教師とは難しい職業であり、長い訓練を必要とする。
(3)だれでも自分の子供を教えようとしてみれば、必ず知らされることだ。
(4)父親が自分の子の良い教師になるのはまれである。
(5)ある場合には、ものを知っているつもりで、じつは表面的なことしか知らない。
(6)ある場合は、知っているには知っていても、説明の仕方がまずい。
(7)ある場合は、教えるのがいやさに、ついいらいらして厳しくなりすぎる。
(8)またある場合には、親ばかがこうじて子を見る眼がなくなり、甘くなりすぎて害になる。
(9)やはり、教えることを専門にし、その道に成果を上げた人に、教え方をたずねてみなければならない。
(10)この問題については、アランの『教育について』を読まれたい。

1．規律のないところに教育はない。

(1)生徒の仕事の第一は、勉強するくせをつけることである。
(2)精神を養うまえに、まず意志の力を養わなければならない。
(3)この理由で、家庭内での教育には決して大きな効果は期待できない。
(4)家庭では、つねに何かのいいわけが通る。
(5)頭が痛いだの、睡眠不足だの。友だちに呼ばれているだの、あるいは、試験の問題のだし方がよくなかっただの。
(6)学校は情け容赦しない。そこが学校のいい点だ。
(7)そしてさらに私は、昔の寄宿舎制度の方が好ましいとさえいいたいくらいだ。
(8)なるほど寄宿舎には非常に困る点もある。かなりの苛酷(かこく)さはつねである。
(9)しかしそこでは人間がつくられる。寄宿舎の中で、子供たちは、一つの集団における自分の場所を求めることを学ぶ。
(10)家庭では、この場所はまえからできている。これでは身のためにならない。それでもせめて両親がもののわかる人なら、通学制度も 15、6 歳までは有益かもしれぬ。しかし、17 歳か

ら 20 歳までの年ごろを、大都会の中であまりにも自由に暮らすのは、由々しいことである。

2．教えることは楽しませることではない。

（1）教育の目的とするところは、子供の精神に基本的な知識の枠組（わくぐみ）をあたえ、それによって時代の水準にまで子供を引き上げることにある。

（2）のちにこの知識の枠組の中に、一生をとおして経験する事柄や新しい発見がおさまるであろう。

（3）この自然の順序をあべこべにして、子供に現代社会のありさまを見せて楽しませるのは、誤っている。

（4）絵本やラジオや映画による授業は、それ自体は効果がない。

（5）ただそれが生徒の努力をうながしたり意欲をそそったりするときにだけ(そしてそれは可能なことだが)認めることができるのである。苦労せずに覚えたことは、すぐに忘れてしまうものだ。

（6）同様の理由で、生徒自身は何もしなくていいただ講義だけの授業は、まずほとんどつねに意味がない。

（7）雄弁は、若い頭脳の上を空滑りするだけである。聴くことは勉強することではない。

（8）もちろん外国語学習の場合は別で、そこではほとんどすべてを耳で学ばなければならない。

3．生徒に試験や試練を課するのはきわめて有益なことである。

（1）ときおり、父兄や、改革をとなえることを職業とする人びとが、大学入学資格試験（バカロレア）の撤廃（てっぱい）を要求することがあるが、これはまちがっている。

（2）競争も賞罰もないところに、決して真剣な勉強はありえない。

（3）同じ理由で、中高校全国学力試験を廃止したのは早計であった。さいわいこれは復活して、優秀な生徒が学校の中で正当な声望をうるいい機会になっている。

4．もっとも重要なのは基礎教育である。

（1）親はともすれば、初等の学年をあまり重要に考えない傾向がある。

（2）「うちの息子はあまり勉強しません。でもまだ子供で、なにしろ５年生ですから。」

（3）ところが本当は、幼いときに数少ないことをきちんと教わることが、すべてを決するのである。

（4）読み書き計算が完全にできれば、それだけでもう大したものだ。

（5）たいていの人間は、この基礎知識がのみこめていない。

（6）読むことすらろくにできない人がじつに多い。

（7）文字を見ても、それが何の観念のしるしであるかが、すぐには頭に浮かばないのである。

（8）数学も、初歩をよく教わっているかいないかで、とても難しく感じたり、やさしく感じたりする。

（9）幾何の本の第一冊目や代数の基礎知識を知らないものが、それより進んだことを理解することはとうてい不可能である。

５．**たくさんのことをいいかげんに教えるよりも、少数のことをきちんと教えた方がいい。**

（１）つめこみ教育はまったく無益である。

（２）教育の目的は、技術者を養成することではなく、健全な精神をつくることにあるのだ。

（３）そのためには、いくつかの学科で充分である。

（４）「主としてラテン語と幾何学を教えること」とナポレオンはいった。

（５）これに歴史を少しと、物理を少し、そしてもちろん国語はたくさんつけ加えよう。それでもう充分である。

（６）歴史についても理科についても、だいじなことは、生徒がごく最近の発見や最新の学説を知ることではなく、歴史的方法や科学的方法を理解することである。

（７）それには、現代の物理学者の細心で綿密な研究よりも、むかしの学者の比較的簡単な業績について教える方が、わかりやすくかつ有効である。

（８）アランが述べているとおり、**教育は断固として時代おくれでなければならない。**

＜コメント＞

フランスの思想家、アンドレ・モーロワの教育論。「生徒の仕事とは何か、勉強」。ちょっと古い考えと思われるかも知れませんが、教育の本質に迫ります。是非、ゆっくりお読みください。

2025 年 7 月 25 日（金）